

戦争も其他の人類闘争の歴史も、西洋のみに存して東洋には存せないといふではない。西洋のみが悪魔國にて東洋のみが聖人國といふではない。但だ其の思想の根本義に於て、東洋の相愛、共親の思想と、西洋の功利的個人主義とは全く相ひ容れざるものである。然るに我が東亞は物質的に彼等から搾取せられたるばかりでなく、其の東亞思想の根本義までも彼等の爲めに蹂躙せられ、消滅せられ、これに代ふるに彼等の所謂自由主義を以てするに至つた。されば今日の戦争は、人生の根本義たる「人とは何ぞや」といふ問題より、延いて現實の彼等の自由勝手に横領したる土地、人民を彼等より回復するに至るものにして、大東亞戦争なるものは決してただ石油や、ゴムや、鐵の生産地の争奪戦といふ如き、單に卑近なるものでなきことも、我等は最も分明に、且つ適切に看取せねばならぬ。一步進んで云へば、この戦争は物質的戦争を超越して精神的戦争である。アングロ・サクソンが世界を弱肉強食の世界たらし

めつつある現状に向つて一大抗議を提出し、狂瀾を將さに倒れんとするに挽回せんとするものである。即ち語を換へて言へば、大東亞戦争は大東亞道義の一大蘇生戦であり、且つ一大弘通戦である。(昭和十八年十一月二十九日)

註 釋

(一) 文永、弘安の蒙古襲來 元の忽必烈が我國を服屬せしめんとして文永十一年(一九三四)及び弘安四年(一九四一)の二度に亘り北九州に來寇した事變、我國は執權北條時宗よく 聖旨を體し、上下一致してこれを撃退した。

(二) A B C Dの包圍陣 アメリカ(America)、英國(Britain)、支那(China)、和蘭(Dutch)の頭文字を取つたもの。

(三) 伏見、鳥羽の役 明治元年正月。

(四) 彰義隊の攻撃 明治元年五月。

(五) 會津戦争 明治元年八月—九月。

(六) 長岡戦争 明治元年五月—八月。

(七) 函館戦争 明治二年四月—五月。

(八) 佐賀の戦争 明治七年二月。

(九) 熊本神風黨の蜂起 明治九年十月。

(十) 十年の役 西南の役ともいふ。明治十年二月—九月。

(十一) ローマとカルタゴとの戦争 ローマは元來農業國家として成立し、農民軍隊の力に依つて領土擴大を遂げたが、イタリア全土を統一するに及び、其の都市は商業的となり、資本主義的國家に移行し、海外への發展を企てるに至つた。カルタゴはもとフェニキアの植民市であつたが、本國のフェニキアが衰へるに至りこれを凌駕して隆盛となつた。その立國は商業に在り、地中海の貿易を獨占せんとするに至つた。従つてローマとカルタゴとの衝突は必然の結果であつた。この戦争はポエニ戦役と總稱せられるが、第一ポエニ戦役(西曆紀元前二六四—二四一)、第二ポエニ戦役(前二二八—二〇一)、第三ポエニ戦役(前一四九—一四六)があり、ハンニバルのローマ占據は第二戦役に屬する。

(十二) ダーウィン 西曆一八〇九—一八八二。英國の博物學者、進化論の創設者として著名。

(十三) 五帝三皇 五帝は支那上代五人の聖君、少昊、顓頊、帝嚳、堯、舜(他説あり)を云ひ、三皇は同じく支那上代の伏羲、神農、黃帝(又は天皇氏、地皇氏、人皇氏)を云ふ。

(十四) 成吉思汗 西曆一一六二—一二二七。蒙古人、支那全土を統一して蒙古(元)帝國を創設し、餘威は印度、東歐に及んだ。元の太祖。

(十五) チムール 西曆一三三六—一四〇五。蒙古人、成吉思汗の後裔と稱す。南は印度、西は東歐まで侵略し、當時の歐洲を震撼せしめた。

(十六) 孔子時代の支那 孔子は我が紀元一一五五年に生れ一八七七年に死んだ。即ち今より凡そ二千四、五百年前の人である。

(十七) 日本書紀 神代から持統天皇の御宇までを編年體に漢文で記した歴史。三十卷。川島、忍壁兩皇子によつて始められ、舍人親王、太安麻呂等によりて繼承せられ、元正天皇の養老四年完成。
(十八) プラトン 西曆紀元前四二七—三四七。ギリシャの大哲學者。ソクラテスに師事し、二元論の哲學を唱へた。

(十九) 湯武放伐 殷の湯王が夏の桀王を放ち、周の武王が紂王を伐つたこと。

(二十) 極天皇基を護る 藤田東湖作「正氣歌」の末句に「死爲忠義鬼。極天護皇基」とあり。

(二十一) 癸丑甲寅 嘉永六年、安政元年。

(二十二) 英國の支那との戦ひ 英國が支那の阿片禁止を口實として無法に戦を挑み、(西曆一八四〇—一八四二年)、南京條約により講和したが英國の勝利に終りたるもの。阿片戦争といふ。

(二十三) 五個所の港市 廣東、厦門、福州、寧波、上海をいふ。

(二十四) 島原耶蘇の亂 徳川家光將軍の時代、基督教信者が幕府の同教禁止に反抗し、益田四郎時貞を盟主として肥前島原に亂を起した。寛永十四年(二二九七)から翌十五年にかけて猛烈に幕軍に抵抗したが遂に滅された。

(二十五) 杉田玄白 二二九三—二四七七。鶴齋と號す。醫者にして蘭學に長ず。「解體新書」等の作あり。本書の著者による「近世日本國民史」中「幕府分解接近時代」七二、七三参照。

(二十六) 藤田幽谷 二四三四—二四八六。水戸の儒者、名は一正。彰考館總裁として大日本史編纂に

當る。「正名論」等の著がある。

(二十七) 藤田東湖 二四六六—二五一五。幽谷の子。諱は彪。英艦の天津に入つたのは文政七年(二四八四)五月であつた、時に東湖年十九。安政二年十月二日の江戸大地震で壓死した。

(二十八) 橋本景岳 二四九四—二五一九。名は左内、福井藩醫彦也の子、漢洋の醫學を修め、深く時事を慮つて朝野の俊豪と交り、京都に於て斡旋畫策するところあり。安政五年幕吏に捕へられ、同六年刑死した、年二十六。

(二十九) 伊藤公 伊藤博文、二五〇一—二五六九。明治期最大の元勳の一人。明治四十二年十月廿六日滿洲ハルビンに於て暗殺さる。

(三十) 日英同盟 明治三十五年一月三十日締結、同三十八年八月及び四十四年七月修正、大正十一年華府會議の結果廢棄せられた。

(三十一) 安政條約 安政五年(二五一八)六月十九日、神奈川に於て調印せられた十四ヶ條より成る日米通商條約、アメリカ側はタウンゼント・ハリス、日本側は岩瀬肥後守、井上信濃守がこれに當つた。

(三十二) ハリス 西曆一八〇四—一八七八。アメリカの外交官。安政二年(一八五五年)ペルリ等の推舉により駐日總領事として來朝、文久二年(一八六二)辭職歸國した。

(三十三) 岩瀬肥後守 二四七八—二五二一。名は忠震、三河の人。川路聖謨等と開港貿易に關することを調査し、屢々米使ハリスと應接し、條約締結に與かつて功があつた。

(三十四) 井上信濃守 安政以來幕府の下田奉行、外國奉行、軍艦奉行等を勤め、岩瀬肥後守と共に條約締結に盡力した。

(三十五) 萬里の波濤を拓開し…… 明治元年三月十四日億兆安撫國威宣布の御親翰に「萬里ノ波濤ヲ拓開シ國威ヲ四方ニ宣布シ天下ヲ富岳ノ安キニ置ンコトヲ欲ス」と宣はせられてある。

(三十六) 松岡外相 松岡洋右(二五四〇—)。昭和十五年七月近衛第二次内閣に外相となり、同十六年七月辭職。

(三十七) 鳩の使 平和の使者のこと。

(三十八) 外務省の覺書 昭和十六年十二月八日朝、東郷外相が駐日米大使グルー、英大使クレイギーに手交したもので七項、四千餘字に亘り理路整然たるものである。

(三十九) 清教徒 十六世紀の後半イギリス國立教會に反抗して起つたプロテスタント派の宗教團體で、主義は、すべての娛樂を罪惡とし、華美、豪奢を蛇蝎視したことである。エリザベス女王に迫害せられてオランダに逃れ、また一團はメイフラワー號に乗じてアメリカ大陸に渡航し、現今の北米合衆國の基礎をなした。

(四十) 虎穴に入つて虎兒を得んとする 後漢書班超傳に「虎穴に入らずんば虎子を得ず」とある。

(四十一) ワシントン 西曆一七三二—一七九九。アメリカ獨立の功勞者、初代大統領。

(四十二) ジェファソン 西曆一七四三—一八二六。米國第三代大統領。

(四十三) 米國南北戦争 西曆一八六一—一八六五。北軍(奴隸解放派)の勝利に歸した。

(四十四) チャールス一世 西曆一六〇〇—一六四九。イギリス王、暴君として斬刑に處せらる。

(四十五) 圓頂黨と騎士黨との争ひ 英國チャールス一世在位時代、これを支持して國家及び教會における專制政治を賛成した騎士黨と、これに反對した圓頂黨との争ひで、互ひに權力を得て利を得んとし優劣があり、英國に於ける二大政黨の萌芽をなした。

(四十六) 帝國主義 及ぶ限り其國の領土を擴張し、若しくは其國の權力範圍を擴張することを目的とする主義。

(四十七) モンロー主義 西曆一八二二年イスパニアが神聖同盟の餘威を驅り南米の植民地の獨立運動を兵力に依つて鎮壓しようとした時、米國大統領モンローがこれに反抗し、教書を以て發表したもの。即ちアメリカ合衆國は歐洲各國の國際紛争に關與しない代りにアメリカ大陸には歐洲列國の干涉を許さぬといふ主義。

(四十八) セワード 西曆一八〇一—一八七二。アメリカの政治家。

(四十九) ナポレオン三世 西曆一八〇八—一八七三。フランス皇帝。一八五二年即位、一八七〇年獨佛戰役に無條件降伏し、翌年帝位を辭す。

(五十) 米國とメキシコとの戦争 北米テキサス州がメキシコから脱してアメリカ合衆國に合併したことに端を發し、西曆一八四六年米國とメキシコ共和國との間に開かれた戦争。米國軍は連勝して首府メ

キシコを占領し、一八四八年ヒダルゴ條約によりて和議を結んだ。

(五十一) サー・チャールズ・ディルク 西暦一七八九—一八六四。イギリスのジャーナリスト、批評家。

(五十二) グラント將軍 西暦一八二二—一八八五。米國第十八代大統領(在任一八六九—七六)。訪日は明治十二年七月。

(五十三) 義和團事件 北清事變とも云ふ。日清戦役後支那人間に排外氣分の起り來りたるに際し、明治三十二年山東、河南兩省に義和團と稱する宗教的祕密結社が起り、支那人を利用して排外熱を煽り遂に外國人に暴行、虐殺を敢てするに至つた。かくて清國政府と各國との間に干戈を交ふるに至り、日・米・英・露・佛・獨・墺・伊の列國は聯合軍を組織し、我が山口素臣中將を總司令官として清兵を撃破し、三十四年八月講和した。

(五十四) 加州 北米合衆國カリフォルニア州。

(五十五) ルーズヴェルト 西暦一八五八—一九一九。テオドル・ルーズヴェルト、米國第二十六代大統領(在任一九〇一—一八)。

(五十六) ポーツマス條約 明治三十八年九月、日露兩國全權が米國ポーツマスに會して締結した日露戦争の講和條約。我が主席全權は小村壽太郎、露國主席全權はウイッテ。

(五十七) 小村外相 二五一五—二五七一。小村壽太郎、外相在任は明治三十四—三十八年、四十一—

四十四年の二回。

(五十八) 講和會議 ヴェルサイユ會議。大正七年十一月世界大戰休戦、翌八年一月佛國ヴェルサイユで講和會議が開かれ、同年六月二十八日、日・米・英・佛・伊以下二十二ヶ國と獨逸との間に調印を終つた。

(五十九) 我が全權 公爵西園寺公望、牧野伸顯以下五名。

(六十) ロイド・ジョージ 西暦一八六三—。英國の政治家、一九一六年首相として自由黨、保守黨の聯立内閣を組織し大戰後はパリ講和會議に奔走した。

(六十一) バルフォア 西暦一八四八—一九三〇。アーサー・ジェームス・バルフォア、英國の政治家、保守黨首領として一九〇二年内閣を組織し同年日英同盟を締結、世界大戰後の平和會議には外相として調印、ワシントン會議には英國全權となつた。

(六十二) ウイルソン 西暦一八五六—一九二四。米國第二十八代大統領、歐洲大戰には一九一七年對獨宣戰を布告し、一九一九年一月の平和會議には盟主となつた。

(六十三) 華府會議 世界大戰後大正十年十一月米國大統領ハーディングの提議に基き日・英・米・佛・伊五國の委員が米國の首都ワシントンに會し、會合國の海軍力に制限を加へ所謂五・五・三の主力艦の比率を定めた會議。

(六十四) 五・一五事件 政黨の腐敗、農村の疲弊、ロンドン條約の我國兵力量の不足等に對し陸海軍

青年將校等が憤慨し昭和七年五月十五日、時の首相犬養毅を殺害した事件。

(六十五) 二・二六事件 昭和十一年二月二十六日、我國の前途を憂ひたる陸軍青年將校等が時の首相岡田啓介初め重臣等を襲撃し、高橋是清、齋藤實、渡邊錠太郎等を殺害した事件。

(六十六) 國際聯盟 國際間における平和安全の恒久的保證を目的とし、共同して國際間の事件を處理せんとする列國の盟約。米國大統領ウィルソンの提言によりヴェルサイユ條約に基き大正八年ジュネーヴに設けられたが、本來米・英・佛等の現状維持機關なので昭和八年以來日・獨・伊等諸國相次いで脱退し、事實上有形無實の存在に歸してゐる。

(六十七) リットン卿 西曆一八七六一。英國の政治家、伯爵。昭和七年國際聯盟日支紛争調査委員長として日本及び支那に來り、所謂「リットン報告書」を作成した。

(六十八) 移民法を制定 大正十三年四月米議會に上程され可決、同十四年七月一日から實施。

(六十九) 資金凍結 昭和十六年七月二十五日。

(七十) ギャラップ輿論調査 米國人ジョージ・ホレース・ギャラップが西曆一九三五年設立したアメリカ輿論調査所の調査。

(七十一) 教書 米國で大統領が國會に事務を報告し又は立法上の注意を促すために發する書面。

(七十二) 城下の盟 城の下まで攻め入られて結ぶ和議、屈辱講和。

(七十三) 日獨伊三國の條約 昭和十五年九月二十七日締結。

(七十四) カボネ アル・カボネ。イタリア系の米國人、賭博と酒密造により巨額の悪財を積んだ。

(七十五) ナイヤガラ瀑布 アメリカ合衆國とカナダ聯邦の國境を流れるナイヤガラ河流路中にかかる大瀑布、幅約八〇〇米、高さ四十八米。

(七十六) 常山の蛇 孫子の九地篇に常山に棲む率然といふ蛇の首を撃てば尾至り、尾を撃てば首至り、其中を撃てば首尾俱に至るとあるに據る。轉じて首尾相應じて攻撃防禦し敵をして乘ずるを得ざらしめる陣法。

(七十七) 劉玄德 支那三國時代の蜀の皇帝。關羽、張飛を兩翼とし諸葛孔明を參謀とし、國を漢と號し、吳の孫權、魏の曹不等と中原を争ひ、半途にして崩じた。

(七十八) シャイロック 英國の劇作家シェークスピア(西曆一五六四—一六一六)の戯曲「ヴェニス

の商人」の登場人物、貪婪残忍なるユダヤ人高利貸の名。

(七十九) 獨ソ不侵條約 昭和十四年八月二十三日締結。
(八十) 出師の表 諸葛孔明が蜀漢の後主に上つた書。漢の劉備崩じて後、孔明は十七歳の遺子劉禪を守り立て吳、魏に當らんとした。二二六年五月自から兵を率ゐて中原を定めんとし、出發に臨んで劉禪に上つたもの。漢室に對する誠忠の情の溢れるもので、前後二回の表がある。

(八十一) クレマンソー 西曆一八四一—一九二九。佛國の政治家。一九〇六年首相、一九一七年再度首相となるや國論を一決し、軍政をフォッシユに一任、祖國の危機を救つて世界大戰最終の勝利を得た。

(八十二) フォッシェ 西暦一八五一—一九二九。佛國の元帥、世界大戰に佛國をして最終の勝利を得しめた軍政の功勞者。

(八十三) 三國 漢の滅亡後鼎立した魏、吳、蜀の三國。

(八十四) 秀吉でも家康でも相當の年まで生きた 秀吉は慶長三年六十三歳、家康は元和二年七十五歳で薨じた。

(八十五) 酒類の製造節約もしくは禁止 例へば寛文十一年十二月味酒、白酒、煉酒の醸造を禁じたるが如き。

(八十六) 第四回の大統領選舉 ルーズヴェルトは西暦一九三二年以來連續三回米國大統領に當選してゐる、次期選舉は明一九四四年である。

(八十七) 山口中將 海軍中將山口多聞、大東亞戰に偉功を樹て、昭和十七年六月南太平洋に於て艦と運命を共にした。

(八十八) 賀來少將 海軍少將賀來止男、昭和十七年六月その艦長たりし艦と運命を共にした。

(八十九) 加藤軍神 陸軍少將加藤建夫。昭和十七年五月ビルマ戰線にて戰死。

(九十) 長崎丸船長 菅源三郎。長崎丸觸雷沈没の責を取り昭和十七年五月二日割腹自殺した。

(九十一) マッキンレー 西暦一八四三—一九〇一。米國第二十五代大統領、無政府主義者に射殺さる。

(九十二) タフト 西暦一八五七—一九三〇。米國第二十七代大統領。

(九十三) ニュー・ディール ルーズヴェルトが一九三三年召集した議會に提出可決された緊急銀行法、産業復興法、聯邦緊急救済法等十數件に金の退藏及び輸出を禁ずる大統領令を含み、これらの政策を一括してニュー・ディールと云ふ。彼はこれによつて恐慌克服、産業復興を意圖したのみならず從來の寡頭金融資本家の勢力を削減し、富の廣範圍への再分配を強調、實現せんとした。

(九十四) フーヴァー 西暦一八七四—。米國第三十一代大統領。

(九十五) ランドルフ・チャーチル 西暦一八四九—九五。英國の政治家、ソールスベリー内閣の時印度事務大臣、藏相を勤めた。

(九十六) ボア戰争 南アフリカに於ける和蘭の移住農民(ボア人)が英國の羈絆を脱せんとしてトランスヴァール共和國を宣明するや、英國はこれを掃蕩せんとして戰端起り(西暦一八八〇—)英の大敗に歸し、共和國の獨立を承認した。其後英國の南阿統一計畫が進行し、これに對抗してトランスヴァール共和國、オレンヂ自由國は共同して英國と戰つた(西暦一八九九—一九〇二)が英國の勝利に終り、占領地は自治領となつた。後の南アフリカ聯邦がそれである。

(九十七) チェンバレーン 西暦一八六九—一九四〇。ネヴィル・チェンバレーン、英國の政治家。一九三七年首相となり翌年對獨宣戰をした。

(九十八) ボールドウィン 西暦一八六七—。英國の政治家、一九二三年、二四年、三五年の三度首相となつた。

(九十九) ノースクリフ 西暦一八六五—一九二二。英國の新聞記者、デーリー・メールの創刊者。訪日は大正十年。

(百) 王陽明 西暦一四七二—一五二八。名は守仁、字は伯安。明代の大儒。知行合一、心即理、致良知の説を唱へ「王文成公全書」、「傳習錄」等の著あり。彼の説は陽明學として我國にも榮え、中江藤樹、熊澤了介などを出してゐる。

(百一) 「アジアは一なり」 岡倉天心(二五二二—二五七三)が明治三十五年その著「東洋の理想」の開巻劈頭に述べたる句。

(百二) 大東亞共同宣言 昭和十八年十一月六日、東京に開催された大東亞會議で採擇、發表された。

出版會承認い430295號
必勝國民讀本
不許複製

昭和十九年二月一日印刷
昭和十九年二月十一日發行(五〇〇、〇〇〇部)

◎ 定價五拾五錢
表定番號一ノ四倍

著作者	徳富猪一郎
發行兼印刷人	相馬基
印刷所	東京都麹町區有樂町一ノ十一 毎日新聞社
發行所	東京都麹町區有樂町一ノ十一 毎日新聞社
配給元	日本出版配給株式會社 東京都神田區淡路町二ノ九

(東東二〇四)



15271-29

每日新聞社刊





